

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	no	御意見等	御意見等に対する考え方
物流(陸上・海上)	スマート物流サービス 18件	1	「EC(電子商取引)」が拡大しており、垂直統合から水平統合に移るべき。効率性を上げるために無駄を削ぎ落とすことが重要なので、研究開発工程は不要。	本SIPは、サプライチェーン全体での物流・商流に関する情報をデータ基盤に集約し、広く関係者が活用できるように(水平統合)することによって、物流・商流現場での生産性向上と新たな価値創造を目的としています。このデータ基盤を構築するために必要な技術の研究開発を進めていきます。
		2	データの移転・開放とデータ主権の考え方についてきちんと整理していただきたい。	本SIPで構築するデータ基盤はサプライチェーン関係者で広く活用することを想定していますが、データ基盤に集約されている情報のデータ主権は情報の提供者に属します。データ主権に配慮した、協調領域の範囲・情報提供や活用のルールに関しては、データ基盤構築のための研究開発とともに、活用する関係者間において合意形成を進めていきます。
		3	関係省庁に「個人情報保護委員会」も加えていただきたい	本SIPでは、データ基盤構築のための研究開発とともに、活用する関係者間において、データ活用モデルの創出と、協調領域の範囲・情報提供や活用のルールに関する合意形成を進めていきます。個人情報については競争領域における取り扱いと考えておりますが、個人情報を含む情報のデータ基盤への提供も想定されるため、あらかじめ、データ基盤へのデータ提供の際のルールについても対応していきます。
		4	データの協調領域の範囲に関するガイドラインを発表してほしい。	本SIPでは、データ基盤構築のための研究開発とともに、活用する関係者間において、データ活用モデルの創出と、協調領域の範囲・情報提供や活用のルールに関する合意形成を進めていきます。
		5	前提となるフィジカル空間が明示されてない。「基幹物流への自動走行導入に伴うハードインフラ」をフィジカル空間として、それに対応するサイバー空間の構築が本SIPのメインテーマであるべきである。	本SIPでは、サプライチェーン全体での効率化を目的としております。ご指摘のように、自動走行技術は将来的な物流の効率化にも大きく関与すると考えられるため、本SIPでは、自動走行技術に関わる関係府省や他のSIP課題の状況も把握しながら進めていきます。
		6	国際物流と国内基幹物流は統一した情報システムプラットフォームにすべきである。	ご指摘の国際物流を含め、既存のデータプラットフォームと連携可能なデータ基盤の構築を進めていきます。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		7	運送業界におけるデータ入力負荷は回避すべきである。	運送業界等におけるデータ入力負荷を出来る限り少なくするための自動データ収集技術の研究開発も進めていきます。
		8	中小規模事業者に広く社会実装できる、荷役作業の自動化技術の開発、トラック積載情報の画像データでの可視化・共有化等も検討すべき。最終的には、本SIPで開発した荷役ロボティクスを海上コンテナのバンニング・デバンニング領域でアジア諸国ならびに欧米への展開を目指すべき。	研究開発対象としてご提案いただいた技術は、その多くが研究開発項目(B)の対象として想定していますが、これらの技術開発は既に様々な企業等で進められており、かつ、その進展速度が極めて速いと認識しています。本SIPとしては、自動化技術単独ではなく、省力化・自動化のために必要なデータを収集し、データ基盤に集約し、活用するまでの一連の技術を研究開発の対象としております。また、本SIPにおいて開発された個別の技術についても、研究実施機関等から適宜国際展開されることを期待しています。
		9	なぜ研究開発項目(B)では、はじめに5～10件程度の実施者を選定し研究開発対象の実行可能性の確認を行い、それらの中からステージゲート方式で絞り込む手法をとるのか？技術開発項目はそれぞれが独立したものではなく、実施者が5～10に及ぶことで一貫性のないものになる懸念がある。	研究開発項目(B)では、企業等で未だ取り組まれていない、革新的な自動データ収集技術の実現を目的としているため、はじめに広く提案を募り、技術の一貫性にも考慮して採択し、その後ステージゲート方式で絞り込みを行います。
		10	データ基盤研究は既存のブロックチェーン実装などを利用し、「スマート物流」のあり方に焦点があたった内容を研究いただきたい。データ連携基盤を維持・運用できる仕組みが必要。	本SIPでは、データ基盤構築と並行して、データ活用による業務効率改善の効果が高いと考えられる複数の業種等において、データ活用モデルを構築することを予定しています。データ基盤構築においては、ご指摘のブロックチェーン等の技術に関しても検討し、必要な技術を導入していきます。
		11	プロジェクトの成果物は巨大なデータ基盤となる為、物流にとどまらず、金流にまで取扱データを広げると将来的な事務方の人材不足に対するアプローチの可能性を残すことができるのではないだろうか。	本SIPでは金流情報の取り扱いには想定していませんが、貿易情報等との連携は視野に入れて進めています。
		12	農産物・食品の輸出に関して、国内物流から輸出先国の消費者まで一気通貫で繋ぎ、鮮度や物流データを把握、追跡、解析等を行うモデルを構築してほしい。	ご提案の内容についてはSIP「スマートバイオ産業・農業基盤技術」とも連携し、お互いの成果を有効に活用することを考えています。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		13	輸送手段共有化や物流センターの自動化技術等、物流現場の業務効率化に直接繋がる、積載情報取得のための3Dレーザーや画像解析技術、貨物サイズを正確に計測するためのセンシング・画像解析技術などの研究開発が必要。	研究開発対象としてご提案いただいた技術は、その多くが研究開発項目(B)の対象として想定していますが、これらの技術開発は既に様々な企業等で進められており、かつ、その進展速度が極めて速いと認識しています。本SIPとしては、センシング技術単独ではなく、省力化・自動化のために必要なデータを収集し、データ基盤に集約し、活用するまでの一連の技術を研究開発の対象としております。
		14	国連CEFACT/SIPS:国際EDI等の国際標準化と連携する必要がある。国連CEFACTがEDIメッセージの意味情報の国際標準化のために開発、公開している共通辞書の活用を研究テーマに組み込むことを提案。	本SIPで構築するデータ基盤は、既存データプラットフォームとの連携を前提としているため、共通辞書等の国際標準に関しても適切に検討・活用していきます。
		15	データ基盤とデータ収集だけではなく、データ利用の観点が必要。データ利用ニーズ(商流)に関して、現時点で全産業を統一できるようなモデル構築は困難。一般消費財、生鮮食品、製造、貿易等の分野別にビジネスモデルを一般化し、それらの物流ニーズを基にスマート物流サービスを考察すべき。	ご指摘のとおり、現時点で全産業を統一できるようなモデル構築は困難と考えています。そのため、データ基盤構築と並行して、データ活用による業務効率改善の効果が高いと考えられる複数の業種等において、データ活用モデルを構築することを予定しています。その次の段階として業種を跨ぐデータ共有と効率化の取組を進めていくことを予定しています。
		16	物流に関わる事業者の現状の理解が重要。データの基盤、データ収集の他に、さまざまなデータサービスを仮想統合するためのハブシステムの検討、個社が保有するデータと組み合わせるための環境構築に関する研究・実証実験が必要。	本SIPでは、データ基盤構築と並行して、データ活用による業務効率改善の効果が高いと考えられる複数の業種等において、データ活用モデルを構築することを予定しており、その際に他データサービスとの連携に関しても検討することとしています。また、
		17	「技術的目標」に片寄った研究開発になっている。世界をリードする「スマート物流サービス」を構築するには、2022年末に実証実験では余りにも遅すぎる。	本SIPでは、データ基盤構築と並行して、データ活用による業務効率改善の効果が高いと考えられる複数の業種等において、データ活用モデルの構築と業種ごとの実証実験を予定しており、個別の成果に関しては適宜社会実装を進めていきます。
		18	物流・商流データ基盤は「物流情報」のみに絞り、既存の「商流情報」「金流情報」「生産情報」等との連携方式にする。	サプライチェーン効率化の実現には、個社が保有している商流情報の連携が必要であり、秘匿性等を担保しながら連携させるためにも、本SIPで構築するデータ基盤で商流情報を取り扱うことが必要と考えています。

パブリックコメントの主な御意見に対する考え方

別紙1

分野	課題名	no	御意見等	御意見等に対する考え方
		19	既存の紙伝票への二次元コード印字によるデータ化など、中小・零細企業が活用可能な簡易手段の検討が必要。	二次元コードの利用に関しても、データ活用手段の一つとして適切に検討します。
		20	「データ基盤は物流・商流データを一元的に蓄積する」という記載と「分散型でオープンな物流・商流データ基盤を構築」という記載の間に矛盾が生じているように思える。	サプライチェーン等の分野ごとに物流・商流データ基盤を構築する意味で「分散型」という表現を用いていたため、ご指摘のように分かりにくくなっていました。適切に追記・修正をします。
		21	データ保有者が物流・商流データ基盤へデータを提供することに難色を示す懸念があり、情報を一元的に集約することは困難であると考える。	本SIPでは、データ基盤構築のための研究開発とともに、活用する関係者間において、データ活用モデルの創出と、協調領域の範囲・情報提供や活用のルールに関する合意形成を進めていきます。
		22	データ連携基盤の構築とデータの自動取得技術開発だけではなく、具体的な活用シーン（ユースケースの検討）を合わせて研究項目として追加すべき。	本SIPでは、データ基盤構築と並行して、データ活用による業務効率改善の効果が高いと考えられる複数の業種等において、データ活用モデルを構築することを予定しています。
		23	氏名、郵便番号、住所、電話番号または電子メールアドレスを入力させる必要性はありますでしょうか。個人情報取り扱い方針に関してウェブサイトの改修を希望します。	御記入いただいた氏名、住所、電話番号、電子メールアドレスは、提出された御意見の内容に不明な点があった場合等の連絡・確認のために利用することがあるため、記載をお願いしています。ウェブサイトの改修に関するご意見は、当該ウェブサイトにおける「9. 問合せ先」にお問い合わせください。
		24	本件の意見募集期間を30日未満としたのは、なぜですか。	本件は、任意の意見公募手続きのため、30日未満としておりますが、意見公募期間を24日間とすることで、十分な期間を確保していると考えます。
		25	表現の統一や誤記を修正する必要がある。	いただいたご指摘を踏まえ、適切に語句の修正をします。